

● 取組概要(目的)

浜通り及び福島県地域においてイノベーションを生み出す高度で加速度的な復興に寄与する人材の育成をめざし、「復興知」事業、「地（知）の拠点整備事業」（文部科学省COC事業）、地域実践特修プログラムを進展させて以下の取り組みを展開する。

【取組1】食・農に関する国内外の復興知を集積・活用した専門教育と研究

【取組2】全学を貫く地域実践特修プログラム「ふくしま未来学」の高度化

人材育成目標

浜通りおよび福島県の復興に寄与する人材育成プログラムの展開と、次の4つの力を備えた、地域の復興とイノベーションの中核を担う実際的人材を育成し、人材を継続的に輩出することを目標とする。

専門的実践解決力

特定の学術分野に高い専門性を有し、実際の課題解決を通じて、浜通りの復興に貢献できる能力

学際的な理解・解決力

他の学問分野の基礎能力にも通じ、複合化した課題に取り組める能力

協働・コミュニケーション力

異なる立場の人々と協働し、力を合わせて課題解決を遂行する能力

復興への情熱・浜通りへの愛着

浜通りの実情に通じるとともに地域への愛着をもち、長期間にわたることが予想される復興に対して、腰を据えてじっくりと取り組む情熱

● これまでの成果

取組1 食農に関する国内外の復興知を集積・活用した専門教育と研究

「復興知」成果の社会横断的総合化・実装展開

知識・試験・技術等に「横ぐし」をさせて、分野間の連携と連動を図りながら、以下の事業を進めている。さらに、全ての事業において、取組2「協働プロジェクト学修」と併行して実施することで、研究成果の社会実装のみならず、教育プログラムの一部として活用を進めている。

- ・土壌改良手法の高効率化とモデル展開整備
- ・除染農耕地の特性解析および土壌肥沃度の回復と収量の増加・低投入持続的生産技術の構築(図2,3)
- ・「もうかる農業」のためのシステム構築 他

「福島大学『復興知』エクステンション」展開 (図4, 5)

福島フォーラム(福島大学の教職員の研究成果や資源を公開する場)や小中学校などへの出前授業を通じ、浜通り地域や福島県内の学校等に知見を提供している。福島フォーラムでは、2021年度の事業開始以来、18回開催し延べ562名が参加した。出前授業についても、14回開催し、延べ469名の参加を得た(いずれも2024年度末時点)。このように、連携市町村を含む浜通り地域の市民、農業従事者等への幅広い分野の基礎的知識の醸成促進を進めている。

取組2 全学を貫く地域実践特修プログラム「ふくしま未来学」の高度化

これまでの「ふくしま未来学」を継続・増強し、主に以下の取組を通じ、浜通りの地域課題解決やコミュニティの再生、新たな技術の創造等を担う人材育成を図っている。

【1年生・2-4年生】フィールドワーク/サービス・ラーニング科目「むらの大学」の増強 (図6, 7)

原発事故により避難を余儀なくされ、復興と地域再生に取り組む地域(川内村・南相馬市小高区)へ年間を通じて繰り返し訪れ、地域住民との交流・調査や活動を通じて学ぶ授業「むらの大学」を増強した。定員を増やし、新たに大熊町・飯舘村でも実施している。

【2-4年生】学類を超えたプロジェクト学修「協働プロジェクト学修」の新設 (図8, 9)

「学生全員を復興・地域課題解決のプレイヤーに」を目標に、浜通り地域をフィールドとしたプロジェクト学修を2021年度に新設した。当初は3年生以上が対象だったが、2023年度からは2年生以上とし、専門性や地域問題の解決能力、他の専門性を有するメンバーとの協働力・学際性などを有する、高度な復興人材の育成を図っている。

【全学年】スタディツアー「みらいバス」の強化

浜通り地域を訪れるワンデー・スタディツアー「みらいバス」の回数および内容を強化し、2021年度以降で延べ26回実施し405名が参加している。

参加学生の就職状況

2014年度から実施している「むらの大学」などに参加した学生のうち、浜通り等15市町村役場等に7名、福島県庁に10名、福島県内の学校に12名および地域企業に7名が就職している。また、中央省庁にも3名(原子力規制庁1名、農林水産省2名)入庁するなど、地域の復興・復興の中心を担う人材を多数輩出している。

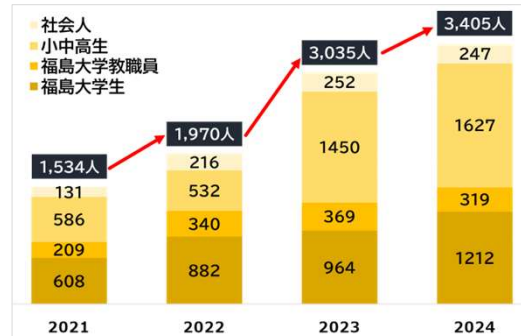
● 今後の展開

取組1 食農に関する国内外の復興知を集積・活用した専門教育と研究

「復興知」事業にて実施している事業については、連携市町村の自治体、農業従事者の協力のもと実装展開を継続する。また、教育コンテンツを拡充させ、福島大学の教育プログラム構築の一部として活用することで、2026年度以降も事業成果が継続活用される体制を構築する。

取組2 全学を貫く地域実践特修プログラム「ふくしま未来学」の高度化

本事業での成果を基に、被災地域の現場に根差しながら地域課題を実証的に発見・分析・解決する力を身につけ、さらに地域におけるEBPMに精通した、福島の復興・創生を牽引する人材を育成するための全学的な実践教育プログラムを開発し、継続して運営する。



(図1) 福島大学と浜通り連携市町村の交流人数(延べ)



(図2) 大熊町農場で栽培中のエゴマの様子 (圃場: 株式会社ReFruits 内)

(図3) 播種6週間後のエゴマ苗の形態



(図4) 福島フォーラム



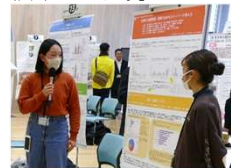
(図5) 出前授業の様子



(図6) 「むらの大学」インタビューの様子



(図7) 作成した小冊子



(図8) 大熊町分科会における成果発表の様子



(図9) 協働プロジェクト学修による成果の社会実装(スモージー開発)